

教材名

「ふたりだけで」【出典:「1年 いきるちから」日本文教出版】

主題名:だれとでも【C-11 公正, 公平, 社会正義】

- 1 日 時 令和 6 年 1 1 月 1 日 (金) 5 校時
- 2 学 年 第 1 学年 6 名
- 3 ねらい 友達の誰か一人を仲間外れにすると, その子に悪いことをしたと思ってみんなが楽しくないことを理解し, 自分の好き嫌いにとらわれないで接するための判断力を育てる。
- 4 主題設定の理由

教材観

第 1 学年及び第 2 学年の指導内容 C-11, 「自分の好き嫌いにとらわれないで接すること」を基に設定した。

社会正義を実現するためには, 一人一人が真実を見極める社会的な認識能力を高め, 相手を思いやる心をもつことが必要である。

低学年の児童は, 自己中心的な考え方をしがちである。そのため, 人も自分と同じ感じ方や考え方であると考え, 異なる感じ方や考え方を否定する傾向がある。こうした自分の好みや利害によって, とすると公平さを欠く言動をとる姿も見受けられる。

この教材は, ララとココという閉じた友達関係の中にカカという新しい存在が関わることで, 人間関係が壊れそうになったとき, 主人公ララが今までの自分の考えが友達ココと違っていたことに気づき, 考え始めるというものである。みんなと仲よくしたいココの考えからララにアドバイスをする言葉を考えることで, 公正, 公平に接することのよさを考えさせることに適した教材である。

児童観

指導観

指導に当たっては, まず, 二人がとても良い関係であることを確かめたうえで, その関係を壊されてしまうと考えたララに共感させ, そう感じてしまうことは誰にでもあることに気づかせる。そして, みんなと仲よくしたいココの考えからララにアドバイスをする言葉を考えることで, 公正, 公平に接することができることのよさを考えさせる。また, アドバイスを考える時には, 「二人だけだと, どうしてだめなの?」と問い返し, 2 人だけではなく, 3 人やもっと多くの人と遊ぶ良さを考えさせる。また, 友達として, そのよさをどのように伝えたらよいかも合わせて考えさせたい。

終末部では, 教材を通して考えたことから, 自分たちの生活の様々な場面においても公正, 公平にできてよかった, 楽しかったことについて考える対話場面を設定し, 自ら考え, 進んでよりよい生活を創り出ししていく活動につなげていきたい。

5 本時の展開

(1) 評価について

【評価の観点】 友達の誰か一人を仲間外れにすると、その子に悪いことをしたと思ってみんなが楽しくないことを理解し、自分の好き嫌いにとらわれないで接することについての考えを深めることができたか。

【評価の方法】 発言・道徳ノート

(2) 準備物

挿絵、写真、CD デッキ

(3) 展開

	学習過程	主な発問と予想される児童の心の動き 【○基本発問 ◎中心発問】	指導上の留意点(○) 準備物など(●) 評価(★) 対話場面(△)
導 入	①「学習テ マの提示」 1 本時の学 習への興味 や関心を高 める。	○みんなで仲良く遊ぶとは、どういうこと でしょう。 【日常生活とのつながり】 ・けんかをしないこと。 ・仲間外れをしないこと。 ・一緒にあそぶこと。 ・みんなが笑顔になること。	○「仲良く遊ぶ」ときは、どんな 時なのかということを考えさせ て、課題意識を持たせる。 ○様々な意見を出し合えるような 雰囲気を作る。
展 開	②「追求活 動」 2 教材「ふた りだけで」の 内容をCDで 聞く。	○ココと二人で遊んでいる時、ララはどんな 気持ちだったでしょう。 ・いっしょでたのしいな。 ・なんだかうれしいな。 ・ずっとあそんでいたいな。 ○カカが「なかまにいて」と言ってきたと き、ララはどんな気持ちから「いやよ。あ っちへ行ってよ。」と言ったのでしょうか。 ・どうしてふたりのじゃまをするのよ。 ・ふたりのあいだには行ってこないで。 ・あなたがきたらたのしくなくなっちゃう。 ○ララがカカと遊ぶのを断ったことを、ココ はどのように思ったのでしょうか。 ・ララはどうしてカカとあそぶのをことわっ たのだろう。 ・カカがせっかくあそびにきてくれたのに。 ・みんなであそんだほうがたのしいのに。	●適宜、挿絵を活用する。 ○ララにとっては、誰にも邪魔さ れず、二人だけの世界で遊ぶこ とが幸せであると感じているこ とを押さえる。 ○ララにとっては、ココと二人で 遊んでいることが幸せなのであ って、カカが入ることによって その幸せが壊されてしまうとい う恐れをもっていることを捉え させる。 ○多かれ少なかれ、このような気 持ちは、誰もがもっていること を確かめておく。 ○役割演技を取り入れ、場面を把 握しやすくする。 ○ココにしてみれば、二人で遊ぶ ことも楽しいがカカも入れて三 人で遊んだほうがもっと楽しく なると思い、ララのように「二 人だけの世界が楽しい」と思っ ているのではないということを 捉えさせる。

		◎（ふたりだけではだめなのかなあ。）と考え始めたララに、何と言ってあげたいですか。 ・ココはカカもいれてさんにんであそんだほうがたのしいとおもっているよ。 ・なかまはずれにしたら、カカがかわいそうだよ。 ・さんにんであそんだら、ララもきつたのしいよ。 ○「二人だけだと、どうしてだめなの？」 ・カカがかなしいきもちになるから。 ・カカがかなしいと、わたしもかなしいから。 ・さんにんみんながたのしいほうがいいから。	○ココの言葉から自分の行いのどんなところがよくないのか考え出したララに対して、友達として、仲良く遊ぶことのよさをどのように伝えたらよいのかを考えさせる。 ○問い返し発問として、「二人だけだとどうしてだめなの？」とたずね、考えを深めさせる。 ★誰も仲間外れにすることなく、仲良く遊ぶことのよさを考えているか。（道徳ノート・発言）
終末	③「児童一人一人のふりかえり」 3 本時の学習から自分たちの生活について振り返る。	○みんなで遊ぶとどんないいことがあったか考えてみよう。 ・楽しかった。 ・嫌な気持ちの人がいなかった。 ・力を合わせて一輪車ができた。 ・たくさんの人で、鬼ごっこが楽しかった。 【日常生活とのつながり】	△ペアでの対話場面を設定する。 ●みんなで仲良く遊んでいる場面の写真を提示する。 ★友達の中の誰かを仲間外れにするとかわいそうだし、自分も罪悪感をもつことを自分の経験も想起しながら考えているか。（発言）

6 板書計画

十一月一日（金）
みんな なかよく

29 ふたりだけで

○「いやよ。あっちへ行ってよ。」といったときのララ



- ・ どうしてふたりのじゃまをするのよ。
- ・ ふたりのあいだには行ってこないで。
- ・ あなたがきたらたのしくなくなっちゃう。

○ココと二人であそんでいるときのララ



- ・ いっしょでたのしいな。
- ・ なんだかうれしいな。
- ・ ずっとあそんでいたいな。

○ララがカカとあそぶのことをわったときのココ



- ・ ララはどうしてカカとあそぶのことをわったのだろう。
- ・ カカがせっかくあそびにきてくれたのに。
- ・ みんなであそんだほうがたのしいのに。

○ララになんとってあげる？



- ・ ココはカカもいれてさんにんであそんだほうがたのしいとおもっているよ。
- ・ なかまはずれにしたら、カカがかわいそうだよ。
- ・さんにんであそんだら、ララもきつたのしいよ。

○ララがかなしいきもちになるから。

- ・ カカがかなしいとわたしもかなしいから。
- ・さんにんみんながたのしいほうがいいから。

○どうしてだめなの？

なかよくみんなであそぶよさ

授業者の振り返り

①発問の検討（発問を絞り込んでいたか。問い返し発問が適切であったか。）

（成果）

- 2人だけで遊びたいララ、みんなと仲良くしたいココの気持ちをそれぞれ考えさせた後にアドバイスを考えさせたことで、それぞれが深く考えることができた。
- 「2人だけでは、どうしてだめなの？」と問い返すことで、公正・公平に接する良さについて、考えを深めることができた。

（課題）

- 「カカがかわいそう。」という考えはでてきたが、「3人で遊んだほうが楽しい。」という自分自身からの考えは、
でなかった。

②対話場面の設定が有効であったか。

（成果）

- 終末にペアトークの場面を仕組むことで、「あの時が、楽しかったよね。」など、楽しかった時をペアで共有することができた。

（課題）

- 「みんなで仲良く遊んでいる場面」が、授業の中での場面だったので、普段の休憩中のことまで考えが広がりにくかった。

③その他

（成果）

- 役割演技を取り入れたことで、友達の考えも興味を持って聞くことができた。

（課題）

- 「自分だったら…」ということが考えにくく、時間が早く進んでしまった。自分ならどうなのか、とじっくり考えさせる場面を設定すればよかった。

